

風しん第5期予防接種説明書

～予防接種を受ける前に必ずお読みください～

風しん抗体検査を行った結果、十分な抗体を有していないと判断された方に対する予防接種で、麻しん・風しん混合ワクチンを接種します。定められた接種方法を守れなかった場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われ、予防接種に係る費用は、全額個人負担となります。また、その接種で健康被害が生じた場合は、法に基づく救済を受けられません。

1. 風しんの症状について

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。ウイルスに感染してもすぐには症状が出ず、約14～21日の潜伏期間がみられます。その後、発しん、発熱、首のうしろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。また、そのほかに、せき、鼻汁、目が赤くなる（眼球結膜の充血）などの症状がみられることもあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

妊娠初期の女性が風しんに感染すると、胎児が風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴のほか、精神や身体の発達に遅れ等の障害を持った先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

2. 予防接種の受け方

(1)使用するワクチン 乾燥弱毒性麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）

(2)接種方法

接種対象者	接種期間	接種回数
1962年（昭和37年）4月2日～1979年（昭和54年）4月1日 生まれの男性のうち、風しん抗体検査の結果、十分な抗体を有していないと判断された者	2022年3月末日まで	1回

3. 予防接種の効果と副反応について

この予防接種で95%以上が免疫を獲得することができます。ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、予防接種後にみられる副反応として、注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがあります。ただし、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様反応（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）、脳炎、けいれん、血小板減少紫斑病のような副反応が報告されています。

4. 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要となったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、その健康被害の状況に応じた補償を受けることができます。

5. 接種にあたっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかな発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合。
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合。
- ③このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある場合。
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

6. 接種後の注意事項

- ①接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーが起こることがありますので、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後3週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや気分が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合は、27日間以上の間隔をあける必要があります。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥接種当日はいつも通りの生活で構いませんが、激しい運動は避けてください。

【お問合せ先】

北広島町役場 保健課	050-5812-1853
芸北ホリスティックセンター	050-5812-2230
大朝保健センター	050-5812-2211
豊平保健福祉総合センター	050-5812-1501